

みやぎの先生たち②

「みやぎの子供たちの笑顔の花を咲かせましょう」

みやぎの教員としてのやりがいとは？

一人一人の生徒との日々の関わりを通じて心身共に大きく成長していく様子を見ることが出来ます。未来を担う子供たちの生涯にわたる健康生活の土台づくりとして、直接働きかけることができるところにやりがいを感じます。保健室での関わりを通して生徒を受容し寄り添うことはもちろん、悩みを抱えた生徒に対して生徒自身の持っている可能性を信じ、励まし、時には背中を押してあげることも必要だと感じます。保健室から巣立ち、学校生活でがんばっている様子を目にしたときは、ほっと安心するとともに、一番の喜びを感じます。

職場環境や先生方は？

初めての土地、仕事で思い悩むことも多々ありましたが、安定感に包まれた職場環境や一緒に働く先生方の支えで続けることができています。また、外部の研修に出る機会も多くあり、学べる環境にありがたみを感じます。今は「チーム学校」の一員としても充実した日々を過ごしています。また、町内外の養護教諭、外部機関など、様々なネットワークを広げ「人とのつながり」を大切に仕事を進めています。

みやぎの教師を志している方へのメッセージを。

「みやぎ」は教育への意識が高く、温かく優しさで溢れる地域です。次代を担い未来をつくる子供たちの幸せのため、自分の力で大きく羽ばたけるよう一緒に支援していきましょう。

小林 有沙

- 蔵王町立遠刈田中学校養護教諭3年目
- 仙台三桜高校、東北福祉大学卒業



養護教諭編

栄養教諭編

「“あしたも楽しみ!”の音がききたくて」

現在の仕事内容は？

学校給食の運営・管理が主な仕事です。具体的には、栄養管理、衛生管理、物資管理などです。また生徒に食の大切さを伝える、食に関する指導も大切な仕事の1つです。教職員や保護者、地域の生産者などと連携しながら、食育を推進しています。

みやぎの教員としてのやりがいとは？

給食を楽しそうに食べる生徒たちの姿を見たり、「おいしかったよ!」「また作ってね!」などと声をかけられたりすると、この仕事をしていて良かったなと感じます。自分が計画した給食をたくさんの人たちが食べるといことは、プレッシャーにもなりますが、給食を通して多くの人に自分の思いを届けられる瞬間でもあり、日々喜びを感じます。ぶかぶかの制服を着て入学してきた生徒たちが、立派に成長して卒業していく姿を見ると、給食が彼らの身体の一部になっているのかと思い、感慨深いものがあります。

みやぎの教師を志している方へのメッセージを。

近年、社会においても食の大切さが見直され、食育が重要視される今、私たちの仕事に対する期待感や責任もこれまで以上に高まってきています。学校給食は児童生徒にとって食習慣が形成されるとも大切な時期にあり、それだけに私たちの担う役割は大きいものです。栄養教諭は学校の中心となり、子供たちに食の大切さを伝えていく、とてもやりがいのある仕事だと思います。食の大切さ、楽しさを一緒に伝えていきましょう。

佐々木 志穂

- 岩沼市立岩沼中学校栄養教諭4年目
- 宮城学院高校、東京農業大学卒業
- 角田市立角田小学校兼角田市学校給食センター、宮城県名取高等学校定時制技師(学校栄養士)、多賀城市立多賀城中学校兼多賀城市学校給食センター栄養教諭8年を経験



実習助手編

「『生徒の未来』が『みやぎの未来』になる」

みやぎの教員としてのやりがいとは？

たくさんの子供の成長を間近で見ることができることです。特に自分の言動で子供が変化してくれるのを見ると、とてもうれしく感じ、やりがいを感じます。

職場の環境や先生方は？

授業以外にも校務処理や行事に関して分からないことがまだまだたくさんありますが、何に対しても皆さんが優しく教えてくださるので、とても心強いです。

今までの生徒との関わりで印象に残っていることはなんですか？

根気強く丁寧に教えることで、初めは授業に興味や関心を示さなかった生徒が、次第に興味を示すようになり、その教科を好きになってくれたことです。

みやぎの教師を志している方へのメッセージを。

子供たちの成長を間近で見ることができる教員という仕事は、あらゆるところに楽しさや、やりがいがあります。教員になるか不安がある方もいるかもしれませんが、ぜひ一緒にみやぎの教育を支えていきましょう。



「子供たちに寄り添い、経験の幅を広げていく」

現在の仕事内容は？

寄宿舎内では分掌に関係なく全般的な生活指導を行っています。また、情報管理係としてホームページの管理などを行っています。基本的な生活習慣が身に付くよう、掃除、洗濯、買物、余暇などの時間の使い方、集団生活内で友人との関わり方など、将来の社会的自立に向けて指導を行っています。

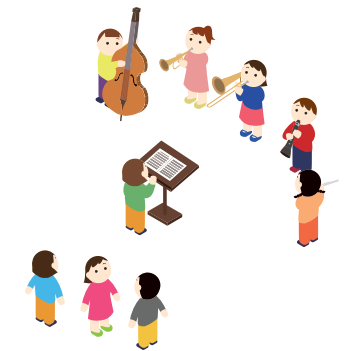
みやぎの教員としてのやりがいとは？

寄宿舎で生活する生徒の中には集団生活の場で初めて経験することも多く、できなかったことができるようになった時の喜びを一緒に共有し、日々成長していく姿を近くで見られることがやりがいです。また、寄宿舎は生活の場でもあるので、学校生活とはまた違う様々な表情を見せてくれます。寄宿舎生には寄宿舎生活を通して、生活経験や社会経験の幅を広げてもらいたいと考えています。

みやぎの教師を志している方へのメッセージを。

寄宿舎は将来自立に必要な生活経験や社会経験を提供できる場所でもあり、日々の生徒の成長を身近に感じることができる所です。寄宿舎指導員として、生徒一人一人に寄り添い、生徒の将来の生活が豊かになるように支援していきましょう。

寄宿舎指導員編



岩淵 悠

- 宮城県立視覚支援学校寄宿舎指導員1年目
- 石巻高校、東北学院大学卒業
- 千葉大学医学部附属病院 言語聴覚士
- 支援学校女川高等学園寄宿舎指導員3年を経験

